

市民と野党の共闘で政治を変えよう。憲法、くらし、平和を大切にする都政を

コロナに負けない！東京労働会館で支援プロジェクト

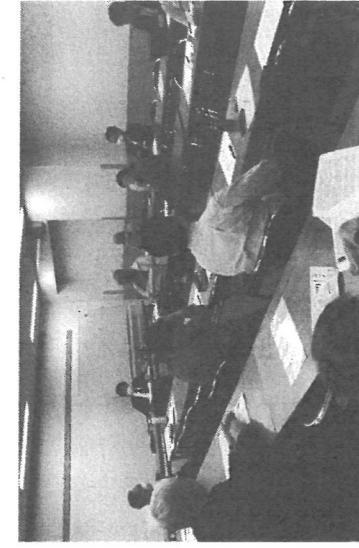
1年を超える新型コロナウィルスの感染拡大と国・小池都政による自己責任徹底との成りゆき任せの対策のもとでおおくの都民が生活の困難の度を深めています。こうしたもとで3月30日、豊島区の東京労働会館で「第2回コロナに負けない！食料×生活支援プロジェクト」が開催され、234人が来場。米や野菜・果物などの支援をうけました。

同プロジェクトは東京地評、東京民医連、東京社保協、東商連、自由法曹団東京支部などの呼びかけで開かれたもの。呼びかけに応えて、さまざまな団体、地域、個人さらには全国各地から支援物資と募金が届けられました。この日、地元に配布されたチラシや事前のWEBでの呼びかけ、「子ども食堂」からの情報などでプロジェクトを知つて来場した人の9割が女性、全員の6割が20歳未満の子どもをもつひとり親世帯でした。

プロジェクトが事前におこなったアンケートではこの「1年間に収入が減った」と応えた人が74%、「無収入」「10万円未満」の収入と回答した人が3割を超え。長期にわたる新型コロナウイルスの感染拡大のもとでおおくの都民が働く場と收入を失い、困難を深めていることが示されました。専門家による健康・労働・生活・教育などの相談コーナーや女性専門ブースが設置され、「ひとり親の経済支援」を求める声や「子どもの学費の支援が欲しい」「ブラックでない企業で働きたい」など、政治の負困を告発し、ゆきとどいた支援を求める要望が寄せられました。



都民がつくる革新都政



市民と野党の共闘の実現で、小池都政転換をめざす呼びかけ人会議

都議選に向けて5月14日に集会開催へ

3月31日、東京労働会館で「市民と野党の共闘の実現で、小池都政転換をめざす呼びかけ人会議運営委員会が開催され、2期目の小池都政、都議選をめぐる情勢を討議し、5月14日に呼びかけ人集会を開催することを決めました。

運営委員会では、永山利和呼びかけ人会議代表、各運営委員から新型コロナ禍の労働、教育、障害者など各分野の現状と政治の転換をめざす市民と野党の共闘のたたかい、都議会第1回定例会での小池知事施政方針演説・2021年度予算、小池都政を支える自公・都民ファアの動き、来る都議選の意義など活発な議論がおこなわれました。

自民党型都政運営を告発

議論では、2期目の小池都知事の都政運営が、東京オリンピック最優先成り行き任せのコロナ対策、東

京大改造のため同時多発的な大規模再開発、その一方での都民困窮をよそにした都民の福祉、くらしへの切実な願いの置き去りなど、自民党型都政運営に拍車がかけられていることが話し合われました。

また、2期目を迎えて繰り返される事決処分などのトップダウン・都民無視の姿勢が勢いを増していくこと、自民・公明・都民ファアストなどがこれに追随し悪政推進の強力な後押しになつていていることにについても指摘がおこなわれました。

都議選での市民と野党の共闘の発展めざし集会開催

この間、呼びかけ人会議は、都知事選挙での市民と野党の共闘の発展をもとめた都政における市民と野党の共闘の発展に向けての活動を模索してきましたが、1年に及ぶ新型コロナの感染拡大のもとで集会などの取り組みを実現することができませんでした。こう

いのち、くらしを守る都政を～呼びかけ人会議～

講演：東京五輪と小池都政
2020年オリンピック・パラリンピックを考える都民の会 代表世話人・和食昭夫
挨拶：呼びかけ人代表
弁護士・宇都宮健児

日時：5月14日(金) 開場18:00
18:30~20:00
会場：文京区民センター・2A
会員：会場参加(定員の半分80人)
とZOOM参加

参加申し込み
tel/fax : 03-3943-6533
e-mail : yobikakerenintokyo@gmail.com
※ZOOM参加の方にはUR Tを送ります

したもじで都政転換におおきな影響を与える都議会議員選挙（6月25日公示7月4日投票）が目前に迫っていることをふまえ、この都議選において市民と野党の共闘を実現させ、都民の立場に立つた都政転換をめざす勢力が都議会の過半数を占めることを期待して、5月14日に集会を開催することを決めました。

自民・公明・都民ファの賛成多数で、都民置き去りの予算成立

3月26日東京都議会第1回定例会が終了しました。同議会では、新型コロナ対策より東京オリンピックを最優先させ爆発的感染拡大を招いた小池知事の責任を厳しく糾すとともに、全面的なPCR検査をはじめ発熱外来の整備による誰でも医療にアクセスできる環境整備、自粛要請と一体となつた補償、そして1年に及ぶ感染拡大のことで困窮と疲弊を深める都民のくらしと営業を守るために予算を策定し、対策をすすめることがよく求められた議会でした。

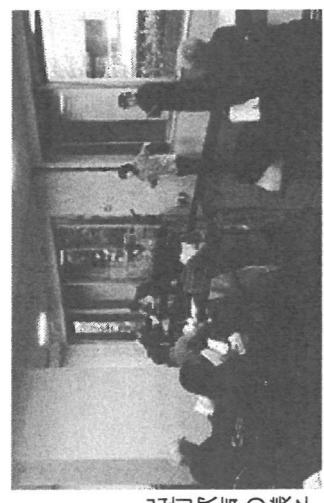
ところが小池知事が提出した予算案は成りゆき任せで見るべき対策もない新型コロナ対策ばかりか、都独自の35人学級や都営住宅の新規建設、国民健康保険の値下げなど切実な都民要求を冷たく切り捨て、高齢者施設や待機児童解消の問題を提出をおこないました。

これまで議会に求められる使命役割ではないでしょうか。

都議会第2回定例会

開会前宣伝行動	5月31日(月) 17:00~ 新宿駅西口 予定
開会 6月1日(火) ~ 閉会 6月7日(月) 予定	

元副市長河内氏ら3人が詐欺容疑で逮捕されるという事態。河内氏は違法兼職、保育園の民营化による市政の私物化をすすめていた。これらに現市長も、当時部長として深くかかわっていたことが立候補を表明。4月18日投票で堀田大臣が市議会での追及にならなかった。堀田氏は市議会での追及に立ってきた市議あるが精一氏無所属が、市内在住2人の弁護士の要請をうけ、市長選に立候補を表明。4月18日投票で堀田大臣が市議会での追及にならなかった。堀田氏は市議会での追及に立つて、立候補を表明し、「投票に協力」というばかりで真相は語らず、選挙戦に及んでしまった。▼市民は疑惑解明を求める署名をあつめ請願したが、市議会で不採択にされた。市長選と同時に行われる市議会も変わることなく、議論が展開されている。▼市民の関心は高く、市民としてはずかしい「市長はどうくらいい知っていたのか」「これでは菅政権と同じ」と。国政野党の応援をうけ、市民と野党の共同街宣も。▼コロナ禍のもとで暮らしへ寄り添う政治が求められるなか、一つひとつの眞面目を変えるたたかいで勝利していく。(の)



出前歌謡の様子

コロナから都民の命とくらしを守る

新型コロナウイルスのもとで都民の生活は困窮を極めています。都民の命とくらしを守るために、

学生の要求による「こころたえる食糧支援活動

民主青年同盟東京都委員会

委員長 新田祐也

民青同盟はコロナ危機から青年学生の命と暮らしを守ろうと奮闘しています。そのなかでこの間ないほどの規模と注目度のある取り組みとなっているのが学生向け食料支援です。

食料支援活動は45都道府県で40000人以上が利用しており、東京でも4000人以上に食料を渡しています。食料を受け取った学生からは「食費を減らすために一日2食にするようになった」「飲食店のバイトがなくなり、コンビニおにぎりばかり食べている」など深刻な実態が出されます。学生は追い詰められており、コロナ以前から苦しかった大学生活の底がもはや抜けつつあると感じています。民青同盟は学生の生活を支えています。

また学生から求められているの

は食料だけではありません。「久しぶりにひとと話をすることができる」「カリキュラム相談につれてくれてうれしかった」など、コロナ危機で孤独に陥っている学生が交流できる場となっています。「大学生らしい学びをしたい」などの声に応えて「審査の授業に向けた学習会」

東京地評の都政への要求

東京地方労働組合協議会 事務局長 井澤 智

東京地評では、小池都政に対して労働組合として様々な要求運動を展開しています。新型コロナ感染拡大は収束が見通せず、労働者の生活と雇用は1年以上厳しい状態が続いている。コロナ禍は、過去の危機管理対応や支援策の延長線上

や「資本論学習会」を企画し好評でした。食料支援活動で聞いた実態をもとに要請もおこないました。食料支援活動は多様な要求実現につながっており、かけがえのない役割を果たしています。

春になり、学生は希望と不安や諦めをいただきながら入学・進級しました。深刻な実態に直面しているたくさんの中学生を支えるために、これからも頑張ります。

拡大が一段と加速し、女性、非正規雇用、年収200万円以下の低所得者層に大きな負担となっています。

この可視化された働く貧困層の実態、国や都の支援制度が行き渡らない現状を、東京都と都議会に持ち込み、制度・政策要素を実施していきます。

東京都の最低賃金は昨年上がりませんでした。時給1013円で

は生活できません。東京地評が実施した最低賃金調査の結果、20代単身者が普通に生活するには時給1500円以上が必要です。

最寄り上げは東京都の管轄ではありませんが、都政でも独自の最低賃金引き上げと中小企業支援をセットで要求していきます。



石原都政14年⑦

臨海副都心開発①

破綻の穴埋めに都民の税金投入

1999年。20世紀最後の年に石原都政が誕生しました。その石原都政が直面させられたのが破綻が明らかになった臨海副都心開発の問題でした。

臨海副都心開発は2期目を迎えて、「財政再建を果たした」と豪語した鈴木知事が、東京湾の広大な埋立地の活用を標して、突如打ちだしたもので、当初計画1986年では建築面積で世界の大都市と並ぶ「東京アーバン開発構想」(98ha)とされていましたが、海底ケーブルの開発と普及を受け断念。中曾根内閣の副総理であった金丸信民担当大臣の東京湾観察介入をうけて路線を変更。2000年度に主要な都市基盤施設が完成。21世紀初頭に副都心が完成するとした東京臨海副都心開発事業計画(1989年、開発フレーム44.8ha・就業人口11万人・居住人口6万人)として推進することとなつたものです。

夢物語・近未来都市
石原知事の就任時には、シンボリックアートをはじめ東京臨海高速鉄道やゆりかもめの開通、上水道や電線、運送回線、廃棄物輸送管が収納された巨大な共

同溝の供用、東京都が開発のモデルとした3つのフロンティアビルなどの貸しビルの竣工などがすんでいましたが、バブル崩壊をうけて進出予定企業が相次いで撤退。誰の目にも計画の破綻が明らかとなっていました。

このような事態は、都議会で認識を問われた石原知事が「進むも地獄、退くも地獄」と答えるを得ないものでした。

どうが、実際に石原知事がすめた道は、自民党・公明党が始めた計画通りの開発推進であり、破綻した財政の穴埋めのための巨額の税金や貴重な都有地の投入。さらには破綻したセクビールの救済のための産業技術研究所などの都施設の強引な移転、科学未来館や産業技術総合研究所など国の施設の誘致など税金による破綻の救済、とり繕いといふものでした。

そして鳴り物入りの大企業本社の進出は1社もなく、インテリジェントオフィスビルによる近未来のモデル都市は夢物語となり、土地利用も半分。賑わいを見せている街区の利用もホテルや賃貸利用の商業・イベント施設などに止まる事態となつていったのです。

卯月はじめ

取り組んでいます。会って話すことが出来ないならばオンラインで繋がりを持とうと200人の会議や交流会が頻繁におこなわれています。アコディオン合奏講座や合唱団などの音楽講座も、休講期間が長く続きましたが工夫しながらようやく再開しました。

他にもYouTubeへの動画撮影に挑戦したり、うたごえのオンライン配信を始めています。20年前のともしびでは考えられない程デジタル分野が強化されています。距離が離れていても楽しめるオンラインの良さを実感しました。しかし、やはり「生で歌う場」は今まで以上に求められています。心を響かにして、慎重に消毒や飛沫防止策をとれば一緒に歌い交わすことは可能です。直近の音楽文化集団ともしび最大の取り組みとしては「春の太たこえ祭典」を5/19(水)に上野公園野外ステージにて準備中です。

新店は21年間に再開出来れば良いのですが、焦らず状況を見ながら判断していきます。まだまだコロナの状況は落ち着きません。日々の学びを止めず慎重に大胆にこれからも歌いつづけていきます。

本道亮